

飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

HIYAKU

第 395 号



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日 / 2020年2月1日

●発行者 / 東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・片桐知己治

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

ヨーロッパ研修旅行

中等部・高校吹奏楽部定期演奏会開かれる



ヨーロッパ研修旅行(エッフェル塔の前にて)



中等部 吹奏楽部定期演奏会



高校 吹奏楽部定期演奏会

作文コンテスト



中等部では今年度も作文コンテストが行われました。

今回の課題は「忘れられない思い出」です。皆それぞれの考えを50分という短い時間で作文にしました。ここでは、各学年のグランプリ作品を紹介します。

1年グランプリ

1年B組 石井 咲良

「頑張っってね!」
「また遊びに来てね!」
この春、みんなからのたくさんの励ましの言葉を胸に、私は大好きな故郷、福岡を離れた。
引越しが決まったのは、引越す3カ月前。私の「オリンピックに出たい」という一言からだった。それからというもの、毎日が困難の連続だった。福岡よりも東京の方が強豪チームは多いからということですぐに引越しが決まり、新体操一筋でも勉強は困らないように中高大そのまま続けていくことができる私立を受けることにした。練習の前には塾へ行き、練習後も眠気と戦いながら遅くまで塾に通った。その努力が実り、受験に合格することができた。そして、ついに引越しの日。たくさんの思いを胸に家を出た。空港に着くと何人もの友達が見送りに来てくれていた。すごく嬉しかった。そして、飛行機の時間まで、いっぱい話した。ずっとこのままでいれたらなんて何度も考えた。でも、その思いは叶うわけでもなくどんどん時間は過ぎていき、ついに別れの時間となった。バイバイと手をふった時に初めてこんなに友達の存在が大きかったんだと改めて感じた。それでも、決してなみだを流さなかった。どれだけ悲しくてもまた必ず会えると信じているから。

3年グランプリ

3年B組 荻上 舞

「4003番、敢闘賞」私のエントリー番号が呼ばれた。パレエのコンクールで賞を受賞したのはこれが初めてだ。今回出場したコンクールはエントリーが年齢順だったので誕生日の早かった私は高校生のブロックに入ることになってしまった。気品と迫力にあふれた高校生の踊りはレベルが違うと思っていたところでの受賞だったので私は驚き、そしてこれまでの努力が結果として出たことがとても嬉しかった。
しかし、私が一番印象に残ったのは賞を取れたことではない。今回のコンクールは毎日一緒にレッスンを励んでいた高校生の先輩も出場していた。コンクール当日も一緒に結果発表を聞いていた。先に私の番号が呼ばれ、先輩の番号も呼ばれるだろうと思っていた。
「これで結果発表を終了いたします」司会者の言葉に耳を疑った。先輩の番号は呼ばれなかったのだ。その瞬間私と先輩との間に溝ができた気がした。
しばらくの間2人も無言だった。私も賞を取れて嬉しい反面、後輩より順位が下という結果をつきつけられた先輩の表情を見て複雑な気持ちだった。すると、「おめでとう。あなたの踊りは素晴らしいよ。本当におめでとう、口を開いたのは先輩だった。賞を取れず悔しいはずなのに私を賞賛してくれた。私は率直にその言葉が一番嬉しかった。
このことをきっかけに私も自分の結果がどうあれ、相手のことを素直に賞賛できる心を持ち、大切にしたいと思った。

2年グランプリ

2年A組 須藤 礼名

小学校6年生の冬。私は塾の自習室で1人で黙々と受験勉強をしていた。
もうすぐで受験。一番、心が折れそうで毎日が不安だった。私の塾では中学受験をする人が私以外にいなかった。私はいつも1人で勉強していた。受験に対する不安を共有できる年代の人がいないので、不安はどんどん積もっていく。とにかく必死に1日1日を生きていた。
そんなある日、先生と高校受験を控えていた当時中学3年生の女の子が、「コンビニへ行って来る」と言って、塾を出ていった。来ていた生徒が少ない日だったので、しんと静まり返った自習室で、また1人勉強していた。
しばらくして、コンビニに行っていた2人が帰ってきた。私の横を通り過ぎて、他の部屋へと戻っていった。
しかし、それから間もなく私の方へと向かってくる足音がした。その音は、ちょうど私の机の横で止まった。誰だろう、と思った私は顔を上げた。そこには、さきほどコンビニへ行った、あの女の子が立っていた。
「勉強頑張っってね!」
そう言って彼女はチョコレート箱を差し出した。
「あ、ありがとうございます!」
お互い、この塾の中で顔は見たことがある程度にしか知らなかったのに、突然話しかけられて驚いたが、彼女が去った後私は心が温かくなるのを感じた。
「頑張っているのは私だけじゃない」—そう思った。彼女も今とても頑張っている。
1人じゃないんだと思えたとき、私は少しホッとした。そうして、さっき彼女がくれたチョコレートを、1つ口に入れて勉強を再開した。
今度は、1人じゃない。

1年 グランプリ B組 石井 咲良
準グランプリ A組 齊藤 直緒

2年 グランプリ A組 須藤 礼名
準グランプリ B組 藤崎 葵

3年 グランプリ B組 荻上 舞
準グランプリ A組 芳賀 一樹



後列左から 荻上さん、芳賀君
前列左から 石井さん、齊藤君、須藤さん、藤崎君

2019年度 小論文コンテスト



左から 高野さん、桑原君、中野さん、川崎君

2019年11月8日(金)、高校3年生で東海大学進学希望者全員が「付属推薦小論文試験」を受験しました。同じく、高校1・2年生は「小論文コンテスト」という名の下に同一テーマで小論文に挑戦しました。これは1年後、2年後のための予行練習という位置付けで行っているものです。
今年度は「NHK放送文化研究所「日本人の意識調査」」には、「あなたは今の生活に、全体としてどの程度満足していますか」と質問する項目が設けられている(回答は「1.満足している」「2.どちらかといえば、満足している」「3.どちらかといえば、不満だ」「4.不満だ」の中から一つを選択する)。
図1・2は、この質問項目に対する回答結果をまとめたものである。これらの図から読み取ることのできる現象を指摘した上で、なぜそのような現象が(生じている)生じたのか、あなたが考える仮説を述べてください」というテーマでした(図は省略しています)。
1年生、2年生からそれぞれグランプリと準グランプリが選出され、1月の朝礼で表彰がありました。以下に作品を紹介します。

高校1年生 グランプリ

1年6組 高野 伊吹

この2つの図を見ると、1973年に比べて2018年の方がどの年齢層を見ても、全体としては上がっている。一方、若者に比べて高齢者の満足度が低くなっていることが分かる。
私は、これがインターネットの普及によるものだと考えた。図1のグラフでは、2008年以降に満足していると回答した人の割合が高くなっている。この時期から満足度が上がったのは、人々がインターネットを使うようになって、生活が便利になったと同時に、インターネットが一般的になってきたからだろう。
だが、図2を見てみると、それまで若者に比べて高齢者の満足度が高かったはずが、2018年には逆転してしまっている。これは、インターネットを身近に感じ、便利になったと考える若者と比べ、高齢者にとっては、使いづらいと感じるようになったからではないか。
スマートフォンにしろ、パソコンにしろ、インターネットにまだ慣れていない、使いこなせていないという人も中にはいる。そしてそれは若者よりも高齢者に多い。そういった人々を差し置いて、時代は先へと進んでいってしまう。それが年齢層によって満足度に差が出てしまっているのではないかと。多くの人に満足をもたらすインターネットだが、それにどこまで人々がついていけるかということも、問題になりつつあるのではないかと。

高校1年生 準グランプリ

1年8組 桑原 千裕

日本人の今の生活への満足度は、過去に調査した結果よりも少なからず増加している。なぜこのようなことが起きているのか、私の考える仮説は2つある。
1つ目の仮説は、科学技術の進歩である。初めて調査を行った1973年から最新の調査にかけて、45年も経っている。その間に、スマートフォンの使用者拡大やドローン技術、ロボットでの作業など、次々に新しいものが出てきている。特に私たちの生活に欠かせないのは、スマートフォンである。スマートフォンのメッセージ機能によって、コミュニケーションの幅が広がり、満足度の向上につながったのだと私は考える。
2つ目の仮説は、地域ごとの取り組み方が挙げられる。国も含めた地域が、より良い幸せを人々が感じられる街作りをしているからだ。その努力が実を結び、人々の満足度の向上につながってきているのではないかと考える。
今の若い世代は、生まれた時から既に楽になった生活を送っている。だから、満足度は大して変わらない。しかし高齢者にとっては、技術の進歩などにより、昔と今では生活の満足度に大きな差がある。これからの私たちがしなければならぬのは、人々の幸福について考えることである。それにより、人々の満足度を維持し、または向上させることが、何よりも大切であると私は考える。

高校2年生 グランプリ

2年1組 中野 真琴

日本人が今の生活に満足を感じるのとはどんな時なのだろうか。家族と共に過ごす時間だと言う者もいれば、一生懸命働いて賃金が貰えた時だと言う者もいる。満足の基準は人間ごとに様々だ。それでは、今の日本人と50年前の日本人を比べてみたいと思う。
まず、図1を見て判ることは、生活に満足している日本人の割合は年々増加している。つまり、50年前の日本と比べ、現在の日本人の方がより生活に満足を感じている証拠だと言っている。これは、高度経済成長期を迎えることで日本の経済が発展したからだだと私は考える。
しかし、図2を見るとまた違ったことが見えてきた。年齢別にみても、50年前には8割程度しか満足を感じていなかった10代から30代の世代が、2018年には10割近くまで増加していたのだ。一体何故なのか。これは、労働環境の改善の成果だと考えられる。以前は工業廃水の未処理等で公害(環境汚染)が深刻で、無関係な一般人まで巻き込んでしまっていたこともあったが、最近ではそんなことも無くなったように思う。様々な企業が海外進出したり、女性の活躍の機会が増えたりと良いニュースもよく耳にする。そういったことの積み重ねが、今の日本を形作っているのだ。
私は今の生活にとっても満足しているが、世界にはそうではない人たちが沢山いることを忘れてはならない。自分が今、こうして生きていられることを大切にしたい。

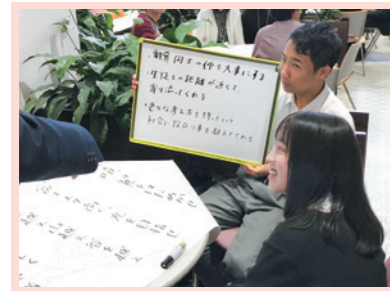
高校2年生 準グランプリ

2年8組 川崎 泰

今の日本人はほとんどの人が現在の生活に満足している。図1であるように1973年から「満足している」と回答する人が年々増加している。また、「どちらかといえば満足している」と回答する人も少しずつ減っており、これから先、ほとんどの人が「満足している」と回答するのではないかとと思われる。図2でも若い年代から高齢者まで約9割の人々が今の生活に満足している。理由として考えられるのは2つある。
1つ目は、情報の発達。この調査が始まった1973年は携帯電話やカラーテレビがなく、ラジオや新聞で情報を得ていた。今ではスマートフォンを片手に気になることをすぐに調べることができる。若い年代はもちろん、高齢者の人もスマートフォンを持っている。そういったことから、これだけの人が今の生活に満足しているのではないかとと思われる。
2つ目は、住みやすい環境。家の近くにコンビニやスーパーなど生活に必要な物をすぐに手に入れることが出来たり、高齢者や障がい者などはスロープや点字ブロックなど様々な設備が施されている。
情報の発達、住みやすい環境という大きな2つの理由が、調査の解答に示されておりこれから先、今よりも社会が発展し、このグラフが伸びていくのではないかと考えられる。

SSH活動報告

公共科学演習のワークショップを他校生徒とのラウンドテーブルで深化(11月9日/奈良市)



3年10組 佐藤 透

このたび、公共科学演習で国語班が「近未来の学校像」について発表したことを機に、奈良女子大学で行われた「協働探究ラウンドテーブル」に参加しました。そこでは協働性にに基づき、教師の専門性や大人・地域の役割を問直すことを目的として、レクリエーションをしながら理想の学校像についてアイデアを出し合いました。18校から集まってきた61名の参加生徒が15チームに分かれて活動したのですが、自分たちで新しい学校を建てるとしたらどんな校歌を作るか、どんな教師を募集するかということについて考えました。校歌にはその学校の特色や理念などを入れる必要があるため、チーム内で「どんな学校にしたいか」「どのような生徒を育てたいか」など、一人ひとりが持つ“理想”を議論しました。
今回の活動によって人それぞれの“理想の学校”を知ることができ、「生徒にとって、教師にとって学校はどのようなべきか」ということを考えるようになり、非常に勉強になりました。

「世界一行きたい科学広場」において科学教室を出展(11月16日/付属浦安高等学校・中等部)



1年10組 村上 七海

私は、浦安で開催された「世界一行きたい科学広場」に物理化学部員として参加しました。私たち物理化学部はペットボトル顕微鏡の工作ブースを出しました。
ペットボトルのキャップで簡易的な顕微鏡を作ることだったのですが、科学広場に来ている人は小学校低学年が多かったため、顕微鏡どころか、理科室にも入ったこともあまりないという子たちばかりでした。説明することが大変でしたが、理解してもらえたことができたと思います。
他に参加していた大学や企業のブースの中で、私が興味を持ったのは自衛隊の南極観測についてのブースです。南極の氷や南極の写真などが置かれていて、南極観測の様子がよくわかるようになっていて、ペンギンなどの生物などの写真も多くて面白かったです。来年もできれば参加したいと思いました。

セコム株式会社を招いて「サイエンス講座」を実施(11月18日)



2年8組 陳 楹曦

今回のサイエンス講座ではセコム株式会社の方に来ていただき、インターネットやSNSのセキュリティについてのお話を聞きました。まず初めに今回の講座でセコムという会社の活動内容や事業について知ることができました。セコムといえば防犯などセキュリティの会社というイメージがありましたが、今は医療や不動産事業にも携わっていることを知って驚きました。
今回の講座では、インターネットやSNSなどに表示される広告についていろいろなことを知ることができました。われわれがふだん使っているウェブサイトなどにはたくさんの企業がつながっていて、情報を集めたり共有したりしていることを知りました。そして、それらの情報をAIが識別して広告を出していることに大変驚きました。また、講座の最後にこうした情報収集がプライバシーの面から良いことなのかということについて、グループで話し合うことができたので楽しかったです。

ガспロム高校とのオンラインプレゼンテーションを実施(12月9日)



2年10組 牛山 伶奈

今回、ロシアのガспロム高校と課題実験の口頭発表を行いました。初めて外部に自分たちの研究を発表するというのもあり、とても緊張していました。発表では得たことが多く、今まで気づかなかった点を学ぶことができました。英語で発表を行ったため、コミュニケーションを取るのが困難なときもありましたが、和気あいあいとした雰囲気の中で活発な意見交換をすることができました。ただ至らない点も多く、スムーズに発表を進められるよう自分の英語力に磨きをかけたいと思います。
また、準備期間にはネイティブの先生方や担当教員に支えていただき、このオンラインプレゼンテーションを成功させることができました。本当にありがとうございました。互いに良い刺激を受けるとともに今後の研究の意欲が高められたため、さらに向上心を持って実験に取り組みたいと思います。

科学コンテストに出場(12月15日/神奈川県小田原市)



3年10組 遠藤 吟弥

私は今までポスター発表を行ったことはありましたが、口頭発表をするのは初めてでした。人前に出て自分の実験について発表するのはとても難しいことでしたが、多くの方々に聞いてもらっている、という状況はとても新鮮な感覚でした。
今回の科学コンテストには東海大学工学部応用化学科の稲津敏行先生がいらしていたのですが、とても印象に残ることをおっしゃっていました。それは、「自分の研究したことには自信を持っていい。それは、神より正しいことだ」という言葉です。私は実験の失敗が続いて自信を持つことができずにいたのですが、その言葉を聞いて、少しは自信を持っていいと思えるようになりました。
このコンテストに来ている大学の先生方は、私にとってとても貴重な経験になることをお話しされていました。このような発表会に参加することができたことを嬉しく思います。

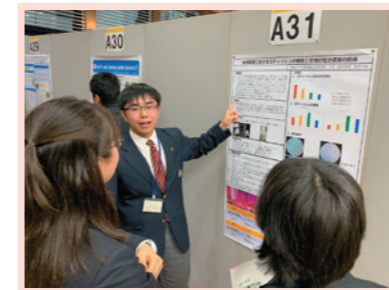
タイ王国の3都市を訪問し、「タイ・日本学生ICTフェア」に出席(12月15日~26日/タイ王国)



3年10組 新出 翔太

時には割り切ることも大切—自分がこのタイ訪問で学んだことです。タイでは発表だけでなく現地の学校で授業を一緒に受けたり、タイの伝統的な踊りを体験したりしました。タイにいる間は基本的に英語を使って現地の人と話をしますが、自分はふつうの人よりも英語ができなかったため、コミュニケーションを取るときも言いたいことをうまく伝えることができず、相手を心配させてしまいました。また、ICTフェアで行ったポスター発表では、相手の質問を訳す手伝いを一緒に行った石川さんと木田くんによってもらいました。口頭発表は一人でやらなくてははいけないうえ、質問にうまく回答することができませんでした。しかし、自分の実力はこのレベルだからと割り切り、やれるだけやろうと考えて行動したので、後悔はありませんでした。それに、現地の人ともそれなりに仲良くなることのできたので、今回のタイ訪問は自分にとってとても良い経験になったと思いました。

東京都内のSSH指定校による合同発表会に参加(12月22日/新宿区)



3年10組 田中 寿英

私は工学院大学新宿キャンパスで行われた東京都内SSH指定校合同発表会に参加しました。この発表会は、都内にある17校のSSH指定校が参加し、実験の口頭発表とポスター発表が行われました。口頭発表とポスター発表のどちらも研究の質が高い印象を受けました。また、ポスター発表が行われた会場では質疑応答や意見交換が活発に行われており、活気がありました。
ポスター発表を通して、キーポイントを短く話すことが大切だと思いました。伝えたいことを伝えるために、実験の動機と実験方法、結果、考察のいちばん肝心なところを見つけて、そこを話すように意識しました。意識してからは聞き手とのコミュニケーションが生まれ、実験に関して深い議論ができたため、伝えたいことが伝わっているように感じました。
最後に、この発表会に参加して発表の工夫などが勉強になりました。これを明日以降の研究に生かしたいです。

大分県立日田高等学校との連携事業(12月24日~26日/大分県別府市ほか)



1年10組 東泉 采利

10組の代表として大分へ行くことになったとき、見知らぬ地で友人を作ったり一人で発表をしたりすることができるかとても不安でいっぱいでした。しかしクラスメイトと一緒にいるというだけで心強かったです。1日目は別府の温泉とそのエネルギー活用についての講義を受け、その後実際に温泉が生かされているところを見ました。フィールドワークでは温泉の蒸気で作られた地獄蒸しを日田高校の生徒さんと食べました。2日目のポスター発表には私たちも発表しました。さまざまなアドバイスをいただき、今後の発表に生かせる経験となりました。また日田高校の皆さんは今まで着目していなかった現象や問題に焦点を当てて、私たちももっと視野を広げて研究に取り組みまいと思いません。
大分へ行き、ぜんぜん知らなかった九州の地学や地域独特のエネルギー、そして私たちの発表の未熟だった点を知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

SSH活動速報

- 1月 7日~ 高校現代文明論 「現代文明の諸問題」に関するディベートの開始(全5回)
- 1月10日~ 公共科学論 芸術(音楽)科教員によるユニット授業「科学と音楽と公共」の実施(全3回)
- 1月31日~ 公共科学論 理科教員によるユニット授業「科学と公共II」の実施(全3回)

付属高校生のためのヨーロッパ研修旅行

高校生活最後の体験

3年6組 萩原 葉月

最後の高校生活なのでさまざまなことを経験したいと思い、研修旅行に参加しました。実際に行ってみると、やはり日本とヨーロッパとは文化が異なり学ぶことがたくさんありました。今回、4カ国訪問した中で個人的に一番良かった所はオーストリアのザルツブルクでした。その理由は、オーストリアといえば“音楽”のイメージが強かったのですが、岩塩やチョコレートなど有名な食べ物があり、皆知る「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台にもなっており、音楽以外にも魅力的なものがあつたからです。そして印象に残った一番の理由は、この4カ国の中で街並みがきれいだったことです。例えば、マックは赤と黄色の目立つロゴですが、街並みに馴染んでいたところが日本と違って驚き、感動しました。

街並み以外にも労働時間や税金などで日本とは多くの違いがあり、驚くことがたくさんありました。今回の研修に参加したことで知識がまた1つ増え、今後に生かしていきたいと思いました。そして普段関わることのない付属生とも関わることができ、一生残る思い出になりました。



セーヌ川ナイトクルーズディナー

学年だより 中1

今年の漢字

1月9日(木)のHRの時間を使い「今年の漢字」を書きました。目標に向かい、この1年を充実させてください。

勝

試合で勝ちたいから。
(A組 加島 優)

初

今年は東京オリンピックやクラス替えなど、初めてがたくさんあるから。
(A組 池田 来喜)

懸

今年は何事にも一生懸命取り組み、たくさんベストの記録を出していきたいから。
(A組 廣木 あおい)

諦

失敗しても諦めないで最後までやりとげたいです。勉強や部活動などいろいろなことに挑戦していきたいです。
(A組 後藤 美優)

生

生命に感謝し生活態度を見直し、学年が1つ上がる年としていろいろなことを成長させていきたいからです。
(A組 森田 優菜)

前

前進する。
(A組 松浦 董)

髪

坊主にしてから風が皮膚に直で当たるので、寒さで体調を崩さないよう髪を伸ばして頭を温かくしたい。
(A組 照屋 琉心)

結

毎日が結果で変わっているようだから。
(A組 秋葉 玲男)

練

部活動で練習して吹奏楽コンクールで金賞を取りたい。
(B組 石渡 葵)

笑

たくさん『笑う』1年にしたいから。
(B組 柿沼 美海)

福

自分の家族が幸せになるように幸福の福にしました。
(B組 大道寺 陸)

変

2020年は今までの自分を壊して新しい自分に変化していきたい。
(B組 江澤 虎乃介)

食

ご飯をいっぱい食べたいから。
(B組 朝倉 隆道)

鼠

「窮鼠猫をかむ」のように絶対絶命の時に打ち勝つ。
(B組 中川 駿)

時

人生に一度しかない今日を大切にしたい。
(B組 伊藤 新菜)



A組 朝読書



B組 朝読書

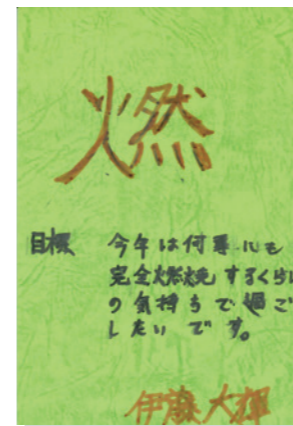


学年だより 中2

新年を迎えて

寒い日が続きますが、子どもたちは毎日元気に登校しています。

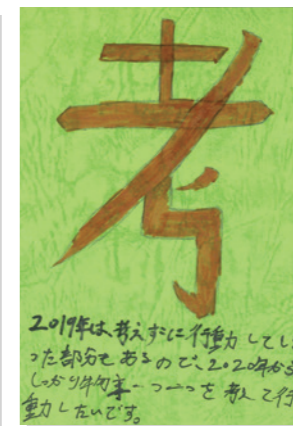
年明け最初の道徳では、今年の目標を漢字一文字で書きました。最高学年になる2020年をどのように過ごすかを、それぞれが真剣に考えていました。



伊藤 大輝



川守田 悠真



神田 哀黎



木村 陸斗



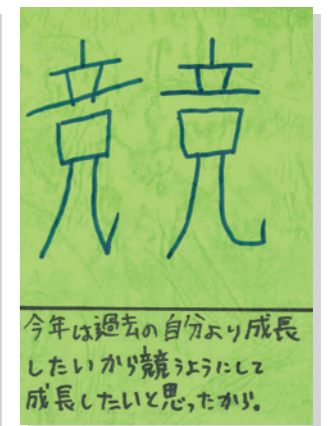
高野 誠人



長野 侑平



高橋 真凜



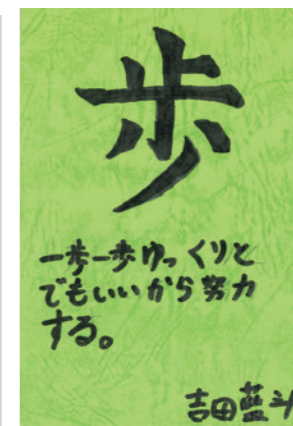
間瀬 健生



三上 晏黎



高安 美璃



吉田 藍斗



松脇 努和

学年だより 中3

1年間部活動の部長として頑張ってくれたマルチメディア部・美術部・物理化学部・吹奏楽部の部長に、1年間の活動内容や学んだこと、楽しかったことを書いてもらいました。

物理化学部

A組 島津 郁斗

私は物理化学部として3年間活動してきました。物理化学部は毎年建学祭で研究の発表や出展をしています。私は3年間ロボットの研究を行いました。高校生の先輩方からアドバイスをもらい改良を続け、3年生の建学祭では出展することができ、実際にロボットを実演することができました。また、部長として部をまとめる役割を任せられ、高校生の先輩方にアドバイスをもらい、部をまとめ上げることができました。いろいろな面で先輩方に支えてもらい、感謝の気持ちでいっぱいです。私も高校生になったら、後輩を支えられるような先輩になりたいです。

美術部

B組 結城 琴音

昨年の美術部は、図書室入り口の飾りの製作や本の紹介のポップ作りなど、図書室の装飾をしました。また、切り絵での美術展への出展をし、多くの美術部員が表彰されました。そして、建学祭では中等部と高等部共同で団体作品の製作をしました。薄いタイルを使ったモザイクアートです。細かなタイルで美しい夜空と城を作り上げました。美術部部長を務めて、今まで私になかった人をまとめる力をつけることができました。

吹奏楽部

A組 永井 凜

私が吹奏楽部の3年間で得たものは団結力の大切さです。なぜなら、音楽を作り上げるためには一人ひとりが同じ目標を持ち、その目標に向かってみんなで団結し、努力することが大切だと経験したからです。今年のコンクールの結果はあまりよくなかったのですが、来年の後輩たちには頑張ってもらいたいです。12月に行われた定期演奏会で私たちは引退となりました。定期演奏会にお越しくださった同級生、先生方、そして家族に感謝しています。ありがとうございました。

マルチメディア部

B組 勝野 涼太

私は1年間マルチメディア部長として、楽しい部活動ができるように後輩たちに対してアドバイスをしたり、作業に対するモチベーションを上げられるようにしてみました。それにより、部内の作品のクオリティーが全体的に上がり、昨年よりも良い作品を作成することができました。昨年の内容を振り返り、改善点を改善することができ、3年間で一番楽しい思い出を作ることができました。

12月26日(木)高輪区民センター区民ホールで、中等部吹奏楽部の定期演奏会が行われました



学年だより 高1

現代文明論学年発表会

12月9日、高輪キャンパス大講義室で高校現代文明論の学年発表会が開催されました。各クラスの代表生徒たちが、「現代文明論の諸問題」についてプレゼンテーションを披露しました。発表を終えての気持ちを紹介します。

1組「科学進歩が環境へ及ぼす影響」

発表者：杉原 碧

現代文明論の発表者として、まさか自分が選ばれると思っていなかったのに、先生から告げられた時は本当に驚きました。緊張してしまって手の震えが止まりませんでしたが大勢の前で発表するいい機会になってよかったと思っています。友達からも褒められるような発表をすることができて満足しています。

2組「人権について」

発表者：金山 美月・齋藤 圭・土橋 愛重・長門 彩空

声を大きくし、目線を上げ、聞いている人に自分たちの伝えたい内容が伝わるように自信を持って発表しました。人権は難しいというイメージがあると思うので、人権とはどのようなものかわかってもらえるように工夫するのが大変でした。(文:土橋)

3組「生命の神秘」

発表者：田中 碧人・福野 廉・森田 健太郎・八木下 海

有名な映画風にして、見ている人が楽しめるような発表をしようと思って、作成しました。内容は、ポエムのようになっていたり、短かったりあまりまとめられていませんでしたが、声をしっかり出して頑張りました。自分たちの変わっている発表にみんなが思ったより良い反応をしてくれてよかったです。(文:田中・福野・森田・八木下)

4組「平和の実現」

発表者：遠藤 郁晃

とても緊張しましたが良い体験になりました。また、途中のミスや噛んでしまった部分も笑ってフォローしてくれたり、発表後には素晴らしい質問までいただいて、改めてこの学年の温かさ、人柄の良さを感じることができました。ご清聴ありがとうございました。

5組「パラリンピック」

発表者：新井 杏彩・渡邊 芙海・齋藤 圭牙・山本 隼

私たち5組は、パラリンピックについて発表しました。今年はちょうど日本で開催されることもあって、改めて自分たちがパラリンピックに対して理解を深めつつ、学年に発表できればよいと考えました。結果として皆さん関心を持ってくれたと思っています。(文:山本)

6組「あなたは命を大切にしていますか? —動物虐待の実態—」

発表者：福島 直樹

僕は、今回の発表を通して話すことの難しさを学びました。前を向いて発表しようとしても原稿があると見失ったり、アドリブで話そうとしても緊張しているため言葉が浮かばなかったり、大変なことが多かったです。このような発表は今回が初めてだったけど、これからも発表の場はあると思うので、次回はもっとしっかり準備をして、悔いの残らない発表にしたいです。

7組「LGBTについて」

発表者：井上 奈菜

現代文明論の発表をして私は、400人以上いる人の前で発表をする機会はないので、みんなに私の調べたことを伝えることができる不安でしたが、みんなしっかりと聞いてくれて、発表してとても楽しかったです。またこのような人前で話す機会があるかはわかりませんが、今回の現代文明論の発表の経験を次に生かすことができたらと思いました。

8組「～脳死と脳死判定・臓器提供と臓器移植～」

発表者：谷口 綾音・山本 愛奈

8組の代表として、学年の前で発表をするという貴重な経験を行うことができました。とても緊張しましたが、最優秀賞をいただけて嬉しかったです。脳死や臓器提供について調べて、今の日本の現状を知ることができました。この発表を機に現状をより多くの人に知ってもらい、少しでも考えていただけたら嬉しいです。この経験を今後の学校生活に生かしていきたいです。(文:谷口)

9組「遺伝子検査について」

発表者：桑島 麗那・日比谷 采音・村山 夢空・山下 夏澄

現代文明論で生命「遺伝子検査」について発表し終えて、改めて遺伝子検査のメリット・デメリットの基礎知識を学び、理解を深める必要があると思いました。手軽にできる遺伝子検査の有用性を知ることができよかったです。(文:桑島)

10組「少水力発電について」

発表者：川鍋 月乃・鈴木 愛理・片倉 隆義・長見 海音・野口 匠

率直に言うと、とても緊張しました。また他の発表と比べて、内容や発表の仕方など、まだまだ改善すべきところがたくさんありました。なので、この経験を通してしっかり反省し、今後の活動に生かしていきたいです。(文:野口)



学年だより 高2

ピクトグラムの作成にチャレンジ!

知的財産教育の一環として、学校内のさまざまな場所をテーマにピクトグラムを作成する活動を行いました。日常生活の中で、身近なものでありながら、いざ自分で作成するとなるとなかなか難しい。作成中は生徒たちからそのような声が聞こえてきました。今回は学校の中で実際に使われそうな力作がそろいました。生徒たちの作品をご覧ください。

どこの部屋のピクトグラムなのか
わかりますか?

グランプリ

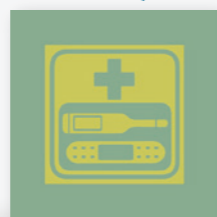
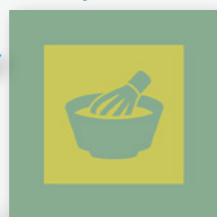


5組 黒澤 颯
見る人がわかりやすく、場所を的確に判断できるように、このピクトグラムにアイデアをたっぷり入れて、表しました。

準グランプリ

1組 菅原 小萩

ピクトグラムということで、お茶だけではなく茶道に使う道具を入れました。また容器の形や黄と緑の使い方を工夫し、見た人がすぐにわかるようにしました。

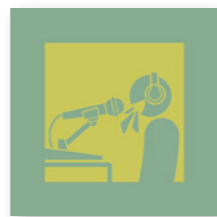
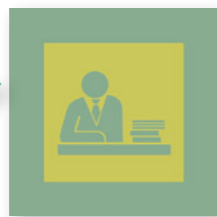


2組 木戸 夕葵

場所の特徴をシンプルでわかりやすくするのが難しかったです。また日常の中にピクトグラムがあると過ごしやすいなと思いました。

4組 藤巻 空

ピクトグラムを作成するにあたって、自分のイメージしていた、デスクに向かって仕事をする先生を描くことができ、よかったです。

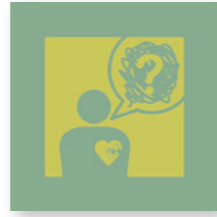
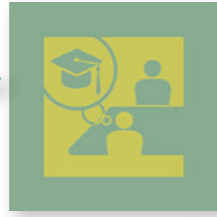


3組 上野 紗優

誰にでもすぐにわかるように、マイクを入れたところがポイントです。今回のことをきっかけに、もっといろいろなピクトグラムを考え出したいと思うようになりました。

10組 山田 奈保

先生と生徒が対話している様子をわかりやすくシンプルに描きました。

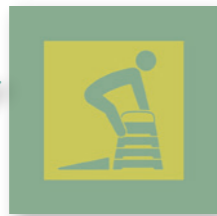


7組 星野 南桜

選ばれるとは思っていませんでしたが、ピクトグラムの特性を活かし、見る人にとってわかりやすく書きました。

8組 櫻井 清史郎

どこの学校にでもあるようなものにしようと思い跳び箱を書きました。わかりやすくシンプルにしたことが工夫した点です。

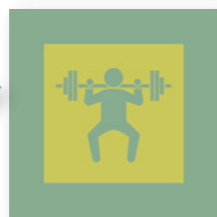


9組 高塚 羅羽

初めてこのような図を書きましたが、一目見て何を表しているかわかるように、簡単な図にしつつ、要素を失わないようにすることが難しかったです。

6組 鈴木 花梨

ピクトグラムを作成するとき、形を単純にすること、テーマを聞いてすぐに思い浮かぶものを書くという工夫をして作成しました。



ピクトグラムとは…

簡単な図形の組み合わせで何らかの情報を示す「絵文字」の一種。言語に依存しないので、海外の方にもメッセージが伝わりやすい。

原案のデジタル化協力
3年10組 澤田 強希君

学年だより 高3

3年生は12月から特別講座が始まりました。本来のクラスから離れ、進路別に分けられたクラスで特別講座を受講しています。その中で、校外に出かけたり、講師の先生を学校にお招きしてお話を聞かせていただいたりする授業も行われています。今号では3年生全員を対象にした「年金講座」と、12月に実施された「企業連携」の授業の感想を4人の方に書いてもらいました。それでは、ご覧ください。

～年金講座～

年金講座を経て

1組 望月 理沙

今回、私たちの学年は年金講座を受講しました。その時の感想とお金についてをまとめたいと思います。まず初めに、そもそもお金とはなんなのか。現代の日本においてお金(おかね)は、次の事象を指します。金(かね)の基本的な意味としては、金属製品の総称であるが、お金(おかね)で貨幣としての黄金も指すようになった。なお、近世の上方では、貨幣として銀を用いていたので、「おかね」には「金」ではなく「銀」の字をあてた。とあるように、昔の「お金」は「金」ではなく「銀」だったそうです。次に今回の年金講座の感想を書きたいと思います。今までは年金についての知識はほとんどなくて、年金について考えたこともなかったのですが、今回の年金講座を経て知識も得られ、いろいろと考えるためのきっかけになったのではないかと私は思います。年金制度の種類がたくさんあるのはもちろん、それぞれの年金制度の基本的な内容を覚えておくことも、今後私たちが社会人として生活していくためにも必要なのではないのでしょうか。

年金講座を終えて

10組 坂本 琢望

私は「年金」という言葉をよく耳にします。中学生の頃から認識はしていた「年金」という言葉ですが、詳しい内容や意味に関してはよく知りませんでした。65歳になればもらえるという認識だったので、今の自分には関係ないと自ら調べることもしませんでした。しかし、年金講座で受給する金額の違いなど初めて知ることがたくさんあり、何歳になれば貰えるのか、どれくらい納めたらどれくらい貰えるかなどが自分の中で明確になりました。また、今回の年金について勉強できたことは、自分の将来にとって大きなものとなったと思います。私には身近な親戚で年金を受給している人がいます。その人は今まで一生懸命に働いてきたからこそ年金受給ができていたのだと感じました。将来、自分が年金を貰える今の状況が来るのか不安になりますが、私たちが一生懸命に働くことでその後の生活の安定にもつながるであろう年金制度を持続してもらえるようにしていきたいです。

～ハーゲンダッツ～

お客様の大切さ

4組 金島 蔭

私は、ハーゲンダッツジャパン株式会社との企業連携の授業を通じて、おいしいアイスクリームへのこだわりを学ぶことができました。今までアイスクリームについてじっくり考えることはなかったのですが、ハーゲンダッツの哲学、歴史、アイスクリームの素材、食品の安全など、非常に得るものが多い授業でした。この講座で印象に残っているのは、社員の方がお話の冒頭でおっしゃった「すべてはハーゲンダッツモーメントのために」という言葉です。「ハーゲンダッツモーメント」とは、「ハーゲンダッツを食べたときの至福の瞬間」を意味します。ハーゲンダッツの使命は、「ハーゲンダッツモーメント」を食べた人に体験していただくことです。そのため、ハーゲンダッツのアイスクリームは素材を厳しく選んだり、アイスクリームの命ともいえるミルクからこだわったり、創始当時から完璧を目指していました。私はこの講座で、食品に関わる会社がどれだけお客様を大切にしているかがよくわかりました。これからの大学、就職に今回学んだことを生かして取り組んでいきたいです。

～リスピーア～

原点回帰

7組 高橋 駿平

今回、リスピーアに行き、理科・数学の原点に返ることができました。リスピーアは高校生の私たちが習うような分野について、小学生でも理解しやすいように作られた、大人も子供も楽しめる場所でした。初めは既知に知っていることについて学ぶのはあまり楽しみではありませんでした。しかし、学校の授業で習ったことの応用となるゲームや機械が数多くあったので、再度理科・数学について学び直し、今まで以上に深く理解することのできる良い機会となりました。例えば、確率の分野について、6個のサイコロが全て同じ数になる確率について学校では計算方法は習っても、実際に試するような時間はありませんでしたが、リスピーアでは、実際にこれを試す機械があり、授業で習ったことの裏づけをすることができました。理系の学部に進む人が多い私たちのクラスは、大学では今まで以上に難しい分野を学ぶ人がほとんどです。そんな私たちにとって、今回のリスピーアでの体験は基礎について学び直すことができる貴重な時間となりました。

お知らせ

中等部3年 海外英語研修(オーストラリア)

日程 2月17日(月)～26日(水)

サンシャインコーストで9泊のホームステイを行い、昼間は各種のアクティビティを実施します。英語力をさらに向上させるための英語研修のほか、現地中学生との交流会、市内観光を行います。十分に準備をして、素晴らしい思い出を作ってください。

基礎力判定試験 高2:2月20日(木)／高1:2月21日(金)

■試験科目 国語 数学 英語 理科 地理歴史・公民

4/10(金)実施予定の基礎学力定着度試験のプレテストです。希望する進路の実現に向けて、しっかりと準備をしてください。

スポーツ大会(本校アリーナ) 高1:2月20日(木)／高2:2月21日(金)

今年度最後の学年行事です。クラスの団結力を高めましょう。

行事予定

February 2月

March 3月

- 1日(土) 中等部第1回入学試験(生徒自宅学習日)
- 2日(日) 中等部第1回入学試験合否発表
- 3日(月) 中等部第2回入学試験(生徒自宅学習日)
Tokyo Sightseeing Tour(中1)
- 4日(火) 中等部第2回入学試験合否発表
- 5日(水) 中等部第3回入学試験(生徒自宅学習日)
- 6日(木) 中等部第3回入学試験合否発表
- 7日(金) 卒業試験答案返却(中3)
- 10日(月) 高校一般入学試験(生徒自宅学習日)
- 11日(火) 建国記念の日 高校一般入学試験合否発表
- 13日(木) 4時限授業(5-6時限カット)
- 14日(金) 4時限授業(5-6時限カット)
- 16日(日) 新入生制服採寸・教材販売(付属生、高校推薦)
- 17日(月) 海外英語研修(中3:～26日)
- 18日(火) 校医相談日⑩
- 19日(水) 専門医によるカウンセリング⑥
- 20日(木) スポーツ大会(アリーナ:高1) 基礎力判定試験(高2)
特別時程(中1・2)
- 21日(金) スポーツ大会(アリーナ:高2) 基礎力判定試験(高1)
特別時程(中1・2)
- 23日(日) 天皇誕生日 新入生制服採寸・教材販売(一般)
新入生・保護者登校日(中等部)
- 24日(月) 振替休日
- 25日(火) 月曜日の授業
- 27日(木) 生徒休業日(中3)
- 28日(金) 生徒休業日(中3) 登校日(高3)

- 2日(月) 後期期末試験(中1・2:～4日、高1・2:～5日)
- 5日(木) 海外研修報告会(中等部)
- 6日(金) 生徒自宅学習日
- 7日(土) 3年生を送る会(1時限目カット)
高輪会入会式(高3)
新入生制服採寸・教材販売(高校延納)
- 8日(日) 第71回(高校)・第11回(中等部)卒業証書授与式
- 9日(月) 生徒休業日
- 10日(火) 答案返却
教科書販売(新高3)
- 11日(水) 生徒自宅学習日(～13日)
- 14日(土) 特別授業(～17日)
- 18日(水) 特別授業(5-6時限カット)
- 19日(木) 修了式・離任式
教科書販売(新高2)
- 20日(金) 春分の日
- 21日(土) 新入生クラス分け試験(高校)
- 25日(水) 春期講習(中1・2:～27日)
- 28日(土) 後援会委員総会④

編集後記

令和最初の新年を迎え1カ月が過ぎた。月日の経つのは本当に早いものである。伝統的な習慣にも触れることができるお正月には、自分自身を奮い立たせる誓いを決め、気合を入れてスタートした人も多いのではないだろうか。今は正月気分もすっかりと抜け、世間では受験の真っただ中、春に向けての準備が着々と進んでいる。3日は節分、「福は内、鬼は外」、豆をまいて心の中や家の中に潜んでいる鬼を退治し、新しい気持ちで希望に満ちた春が迎えられたいものである。(ほ)